

青少年交換委員会

委員長 山田 正人（大阪狭山）

【活動基本方針】

青少年交換は、高校生に、長期交換では1年間の留学の機会を与えます。短期交換では、数週間の外国訪問の機会を与えます。

外国から来る留学生にとっても、外国へ行く日本人にとっても、異なる文化の中に身を置くことで、その国の文化を受け入れ理解することができます。ホームステイ先との交流を通じて、豊かな人間関係を結ぶことができます。さらに、自国の文化の良さに気づき、自分自身の進路にも多大な影響を受けることとなります。若い時の留学経験は、多くの気づきを与えてくれるでしょう。その後の人生を左右するターニングポイントとなることでしょう。草の根の文化親善大使としての活躍を期待したいと思います。

受け入れるクラブ・ホームステイ家族にとっても、国際理解・国際協力を実践する最良の機会となるでしょうし、本当の意味での平和外交となると確信します。

80有余年の歴史を持つ青少年交換プログラムは国際ロータリーの推進する国際親善の柱的なプログラムです。経済不況の波に直面し会員数の減少にさらされている今こそ、このプログラムを、クラブの活性化やロータリー活動の目標である奉仕の精神の発揮の場として活用していただきたいと思います。12-13年度の活動方針である「奉仕を通じて平和を」の具体的な例となることと思います。

【活動計画】

- ① 2012-2013年度は、8名の交換を行います。
- ② 2013-2014年度に向けて、長期交換留学生10名程度の募集・選考を行います。短期交換留学についてはこれとは別に実施します。
- ③ 年間3回の地区オリエンテーションを行います。
 - 1) その内容は受け入れ学生の生活指導、カウンセリング、日本語の習熟度の確認と日本文化の学習の機会の提供です。また、派遣学生に対しては、日本人としての自国の歴史・文化の学習の場を提供し、文化親善大使としての自覚を促す機会とします。
 - 2) それと並行して、受け入れ家族会議、派遣学生家族会議、カウンセラー会議、学校担当者会議を実施し、留学生在生活が円滑にいくように配慮します。また、受け入れ側の悩みや問題を共有し、互いの経験が豊かな国際親善となるような話し合いの場を持ちます。
- ④ 各クラブで、青少年交換委員が中心となって、カウンセラーを活用し、ホームステイ家族、学校担当者と連絡を取り、月1回の報告を書いてもらいます。
- ⑤ インターアクト、ローターアクトにも短期留学のチャンスを与えます。
- ⑥ 帰国した交換留学生は、オリエンテーションの補助を義務付けます。交換留学生へのアドバイスを通して自己の体験の意味づけを深めていってもらいます。
- ⑦ 危機管理委員会とも連絡を取り、交換学生の心身の安全に留意します。